



雲が流れて 光がさして 見上げてみれば うらうら……
虹が 虹が 空にかかって 君の 君の 気分も晴れて
きっと明日は いい天気 きっと明日は いい天気
(新沢としひこ 作詞／中川ひろたか 作曲 「にじ」より)

おそらく子どもたちは、幼稚園や小学校で歌ったことがあるでしょう。「にじ」という歌の一節です。
7月2日(木)、5年生が宿泊学習に出発するこの日の朝は雨でした。出発式ではこの歌を取り上げ、「きっとこれからいい天気になる。空も、みんなの心も。」と伝えました。
その予想通り、子どもたちが五色台少年自然センターに着いたころには雨は上がりました。2日目の朝は、見下ろす海の陽光にきらめく姿、周囲の万緑、仰ぎ見ると蒼穹、美しい自然を独り占めしているかのような朝でした。

晴れ渡った宿泊学習

「みんなの心」も天気と同じように晴れ渡りました。

1日目、昼。野外炊事でおいしくうどんをいただいた後、私も片づけを手伝おうとかまどの周りを掃いていると「代わります」と声を掛けてくれた子がいます。「ありがとう」とほうきを渡し、それなら流し台をきれいにしようと水切りワイパーで仕上げをしていると、次は別の子が「代わります」と言ってくれました。そのふるまいはとても自然でした。



夜。協力して作り上げた、キャンプファイヤーのスタンツ。似た出し物は二つとなく、それぞれが個性的でした。それはきっと、その過程で出されたであろう様々な意見を否定するのではなく、創造を大切にしながらつくってきたからでしょう。それぞれの色が隠ることなく発揮され、そこから5年生の仲間意識を感じました。炎に照らされて見た友達の顔。山に響き渡った歓声。そのシーンが子どもたちの瞳のフィルムに焼き付けられたはずです。

2日目。焼き板づくりでは、マッチで火をつけようとしてもなかなかうまくいかない友達を、誰も責めたり急かしたりすることがなく、グループのみんなで見守っていました。

火が怖かったり、板が燃えすぎてしまうのではないかと心配して、思い切って火の中に板を入れることができない友達には、「こっちから火に入れるといいよ。」と自分の場所を譲ったり、「もっと奥に突っ込んで大丈夫だよ。」とアドバイスしたりする友達がいました。

宿泊学習は、高学年となった5年生のこれからを占う試金石だと思っています。この2日間の姿から、次年度の豊中学校のリーダーとしての姿が見えるようでした。



5年生が帰ってきた日の翌日、学校のヒマワリが花を咲かせていました。おそらく出発の日には咲いていなかったと記憶しています。天気も晴れ、子どもたちの心も晴れ、その日差しを浴びて開いた花のように見えました。